

『日中児童文学交流史の研究』の刊行記念

講演 『児童文学からみた日中の文化交流』

酷暑の夏も過ぎ、秋風が吹き始めた今日この頃です。皆さまいかがお過ごしでしょうか？
ICLC 国際識字文化センターは、このたび中国の児童文学研究者の季穎(きえい)氏をお迎えして、日本と中国の児童文学史上、画期的な講演会を開催することになりました。パネル討論は、皆さまのご参加を交えて、活発な討議を行う予定です。またパキスタンのマイノリティの人々が住むカラージャの村が大洪水で被災し、救援に行つて来た村串静江さんから現地報告を行っていただきます。皆さまのご来場を心からお待ち申し上げます。

- 第1部** 講演：『児童文学からみた日中の文化交流』
講師 季穎(きえい) (中国の児童文学研究者)
司会 田島伸二 (ICLC 代表)
- 第2部** パネル討議：
パネリスト 季穎、津田櫓冬(絵本作家)、田島伸二

とき： 2010年10月16日(土曜日) 午後2時～午後5時半
(受付は午後1時半から)

ところ：胡琴工房・竹林閣 東京都新宿区新宿5-14-3 有恒(ゆうこう)ビル6F

Tel: 03-6457-4637 <http://www.chikurinkaku.com/access>
JR 新宿駅東口より徒歩約10分 新宿三丁目駅(丸ノ内線など)C7番出口より徒歩約5分
大江戸線東新宿駅から徒歩約5分

参加費：1000円 (ICLC 会員は500円)

主催・連絡先： ICLC 国際識字文化センター 東京都目黒区中根1-16-10
メール：iclc2001@gmail.com http://iclc.at.webry.info/201009/article_2.html
電話：090-6505-1782、03-3718-5260

* 季穎(きえい)

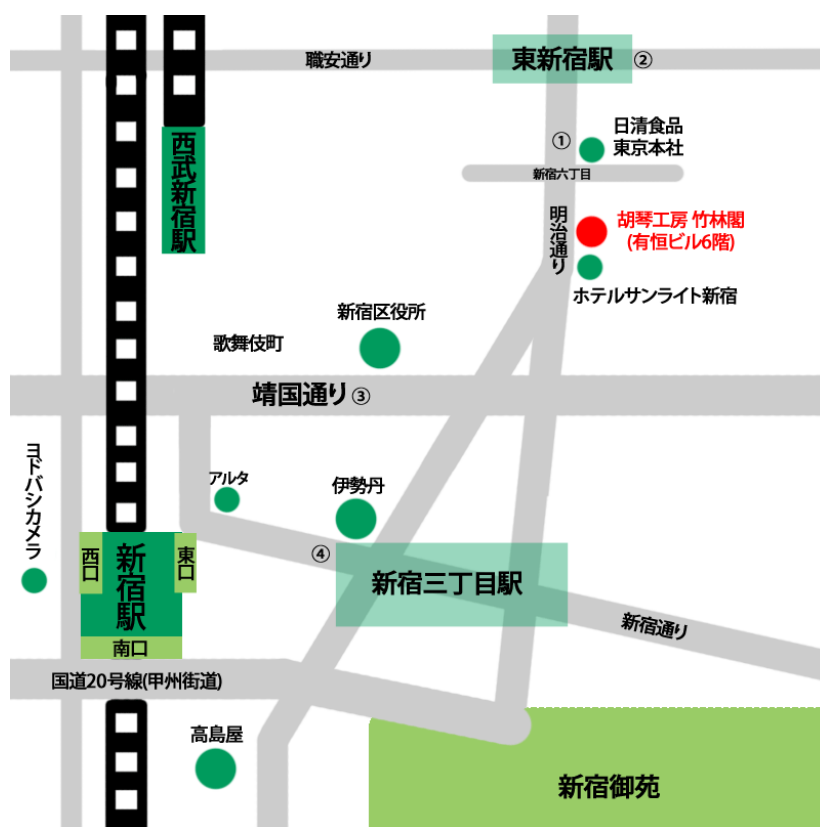
1949年生まれ。中国少年児童出版社の元編集者。
創作も手がけ1997年から日本にて研究に従事し、
絵本の翻訳紹介に尽力。松居直氏の絵本論を編訳した
『我的图画書論』は、中国の画家や作家たちに大きな
影響を与えた。2008年、聖和大学で博士号を取得。
『日中児童文学交流史の研究』が風間書房から
2010年2月に出版された。



今春、季穎さんは7年の歳月を費やして『日中児童文学交流史の研究－日本における中国児童文学及び日本児童文学における中国』という新しい著書を刊行されました。この本は日本の近代児童文学が出発した1868年から2000年まで、日本で出版された中国に関わる子ども対象の本の全調査や4000点余りのデータベースを基に、日中の児童文学が各時代、どのように関連し影響しあったのかななどを論述したものです。これは日中児童文学研究で画期的な基礎を築いた素晴らしい業績です。

1. 第一部の講演では「日中児童文学交流に大きな役割を果たした絵本」として中国や日本で刊行された絵本をとりあげ、日中児童文学史で大きな役割を果たした数々の絵本を紹介します。
2. 第二部のパネル討論では「戦争と日中の児童文学」として、日本の児童文学は戦争中、中国や中国の子どもたちをどのように描いていたのか、巖谷小波、宮沢賢治、坪田譲治など日本の代表的な作家を取り上げ、児童文学者の役割や課題などについてパネル討議します。

.....
<竹林閣への行きかた>



開催場所： 新宿区新宿 5-14-3 有恒(ゆうこう)ビル 6F 竹林閣